

表3 危害のひどさ（S）の段階分けの例

危害のひどさ（S）	危害のひどさの程度（ ）内は目安の例
S 1	微傷（不休業災害に至らない災害）
S 2	軽傷（不休業災害）
S 3	重傷（休業、後遺障害 8 ～ 14 級）
S 4	重大（3 人以上の死傷や、死亡・後遺障害 1 ～ 7 級）

表4 リスク要素：危害が起こる可能性の考慮事項

リスク要素	考慮事項	
危害が起こる可能性	人が危険源に曝される頻度と持続時間	・危険区域※への接近の必要性： 運転中や保守作業時等の作業内容 ・接近の方法： 加工機械への材料の手動による挿入など ・危険区域内に滞在する時間 ・接近者の数 ・接近の頻度
	危険事象の発生確率	・信頼性等のデータ 機械本体、制御装置、構成部品等 ・災害履歴 ・健康障害の履歴 ・類似機械とのリスク比較
	危害を回避又は制限できる可能性	・運転者等の特性：熟練、未熟練、知識無し ・危険事象の発生速度： 地震のように予測できず<u>不意に発生</u> 爆発火災のように<u>高速で発生</u> 二酸化炭素濃度の増加のように<u>緩慢に発生</u> ・リスク認識：一般情報、直接観察、危険表示 ・回避の人的可能性：可能、条件付き可能、不可能 ・運転体験と知識：同一機械、類似機械、未経験

表5 危害が起こる可能性（K）の段階分けの例

危害が起こる可能性（K）	発生可能性の程度（ ）内は目安の例
K 1	まれ（機械の使用段階中に 1 回）
K 2	たま（2 ～ 3 年に 1 回）
K 3	時々（年に 1 回以上）
K 4	頻繁（月に 1 回以上）